

令和6年1月5日

## 令和5年度 3学期始業式

皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。いよいよ令和6年になりました。それぞれに、今日、どんな気持ちで登校してきたでしょうか。

今日、まず最初に話をしなければならないことは、今年になったばかりの1月1日に起こった「令和6年能登半島地震」についてです。新年早々、日本中がこの悲しい話題に包まれました。やり場のない、何とも言えないつらく悲しい気持ちになりました。私たちには、何ができるのでしょうか。

ここで「能登半島地震」で亡くなられた方々への追悼と、被災地の一日も早い復興を願い、ここに集う我々全員で「黙祷」を捧げたいと思います。「黙祷」とは、「言葉で発することなく、心の中で静かに祈りを捧げること」です。それでは、少し頭を下げ、目をつぶって、約20秒間、それぞれに祈りを捧げてください。

「黙祷」 「はい、やめてください。」 (合図：生徒は座る)

田舎に帰省した子どもたちも、その被害に巻き込まれたと聞いています。2学期、西中学校でも地震を想定した避難訓練を実施しました。「いつ、どこで、何が起こってもおかしくない」状況、例えば、私たちにもかなりの影響があると考えられる「南海トラフ地震」も、いつ起こるのか不透明です。今回の「能登半島地震」も、まさか1月1日の元旦に起こるとは誰も思っていませんでした。

これからの時代は、先が見えない、不透明な時代と言えます。皆さんは、その中で生きていくわけです。今、私が思うこと。それは平和な毎日を送ることができている自分は、少し言い過ぎかもしれませんが、亡くなられた方々の分も、一生懸命に生きていかなければならないなあ、ということ。また、安心して生活できる今の環境に心から感謝して、周囲の人にも優しく声をかけ、また協力して生活していかなければなあ、ということ。そして、少々の苦しいことにも、自分ができる精一杯の力を尽くして、乗り越えていかなければいけないなあ。そんなことを思っています。

さて皆さん、人は、新たな1年の始まりの1月や、新しい学年になった4月などの節目の時には、今までの自分から、新たな自分への期待も込めて、「よーし、がんばるぞー」といった志(こころざし)や意欲をもつことができるのではないのでしょうか。今年の目標を立てましたか？皆さんには、その成長した姿を、一緒に心から喜んでくれる人がいるのではないですか？その期待に、ぜひ応えようとしてほしいと思います。一生懸命にやってきたと言える自分自身に後悔はないですし、何かを実現しようとするための「努力」や「プロセス(過程)」こそが、これからの皆さんには最も重要なのだと思います。また、皆さんががんばる姿は、これまでも、これからも、周りの人たちに「元気」や「力」を与えてきたし、与えることができるのだと思います。

この3学期、1年間のまとめの学期として、また夢や希望に満ちた新しい来年度への準備の学期として、努力を惜しまず、突き進んでほしいと願っています。